

8 コミュニケーション能力の育成

(1) プログラム開発の背景

急速な社会変化の中、様々な価値観や背景をもつ人と人間関係を形成し、合意形成・課題解決するため、言語能力を高めることが求められている。

豊かな心を育むことやよりよい人間関係を形成する上で、言語能力が必要であり、また、不登校や中途退学の要因・理由としても、児童生徒の人間関係を形成する力やコミュニケーション能力に関するものが挙げられることから、人間関係を形成する基盤となるコミュニケーション能力を育成する取組の充実が必要となっている。

このことから、道立青少年体験活動支援施設においても、多様な集団の中で、互いの考えや気持ちを認め合い、尊重・協力し合うなど主体的によりよい人間関係を形成しながら、自己を成長させていくコミュニケーション能力の育成を図るプログラムを開発するものである。

(2) 道及び道教委の主な関連施策

・北海道教育推進計画 施策項目 12「コミュニケーション能力の育成」

児童生徒が自分の考えをもち、表現しながら考えを形成・深化させたり、よりよい人間関係を形成したりすることができるよう、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動等における言語活動の充実を図るとともに、コミュニケーション能力を高める学習活動の充実に向けた取組を促進します。

(3) 各施設における事業名と主なアクティビティ等

砂川	高等学校 生徒会フォーラム
令和3年2月6日(土) (オンライン開催)	実践発表、講義、学校間web交流など
深川	高等学校生徒会フォーラム in ネイパル深川
令和2年11月5日(木)～6日(金) (1泊2日)	ワークショップ、講義、グループワーク、スポーツクライミングなど
森	高等学校生徒会フォーラム
令和2年11月7日(土)～8日(日) (1泊2日)	実践発表、学校間交流、講義、ワークショップなど
北見	高等学校 生徒会フォーラム
令和2年12月5日(土)～6日(月) (1泊2日)	コミュニケーショントレーニング、演習、グループワークなど
厚岸	高等学校生徒会フォーラム
令和2年11月26日(木)～27日(金) (1泊2日)	情報交換、ワークショップ(交流型・課題解決型)など

高等学校 生徒会フォーラム

1 事業のねらい

高等学校の生徒会役員等を対象に実践的な話し合いの方法や課題解決の手法を体験し、リーダーとしての資質の向上や生徒会活動の活性化を図る。

2 事業の概要

- 期日 R3.2.6(土) 日帰り (※オンラインで開催)
- 対象 高等学校生徒会役員等とその引率者
- 人数 3校 20名
- 場所 ネイパル砂川

3 プログラム

12:50	13:00	13:50	15:00	15:30	17:30
接続テスト	開会式	アイスブレイク	実践発表	講義	Web 交流会
					ふりかえり 終了

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- Web 会議アプリケーションを使った交流の活性化
 - ・Web 会議アプリのグループ分けの機能やチャット機能を活用し、交流の活性化を図った。
- コロナ禍での現状と課題、今後の方向性の協議
 - ・「これからの時代に求められる生徒会活動」をテーマとし、コロナ禍で生徒会活動が制限されている中、それぞれの地域の現状を紹介しあい、共通点や相違点を交流するなどして、気づきを得られるよう工夫した。
- 行事の企画のポイントの提示
 - ・講義では、行事の企画のポイントを提示し、web 交流会での情報交換が促進されるよう工夫を行った。



オンラインによる協議



コロナ禍での現状と課題の交流

5 事業の評価

- アンケートから
 - ・「新しい発見や気付くことがたくさんあった」という項目について、全ての参加者が肯定的な評価をした。
- 参加者の声
 - 〈肯定的な意見〉
 - ・他の高校で実施していることで参考になることがあったので、参加してよかった。
 - ・コロナ禍を考慮した上で活動を知ることができてよかった。
 - ・今後の生徒会活動に生かしていけそうなことばかりだった。
 - 〈否定的な意見〉
 - ・話題があってもみんなで話す難しさを感じた。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートでは、他校の実践を知ったり、学校間の交流ができたことよさを感じていることがうかがえ、今後の生徒会活動の改善に向けて意欲を高めることができたものと考えられる。
- 意見交流の難しさを感じているという声があったことから、オンラインの長所を生かした交流の仕方を検討する必要がある。



企画のポイント

生徒会活性化のヒントとなる
オンラインの長所を生かした
学校間交流の工夫

高等学校生徒会フォーラム in ネイパル深川

1 事業のねらい

高等学校の生徒会執行部役員が他校との交流やワークショップ等をおして、生徒会活動をより実りあるものとするための実践的な研修を積み、持続可能な社会の創り手としての資質を高める。

2 事業の概要

- 期日 R2.11.5(木)~6(金) 1泊2日
- 対象 高校の生徒会役員および生徒会担当教諭
- 人数 7校 57名
- 場所 ネイパル深川
- 協力 荒井一洋氏 (NPO 法人大雪山自然学校代表理事)

3 プログラム

日時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
11/5 (木)								受付	開会式	講話、ワークショップ		夕食	スポーツレク		自由入浴	消灯
11/6 (金)		朝食		協議、発表		閉会式	解散									

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 話し合いの方法について実践的に学ぶ講師の活用
 - ・大雪山をフィールドにした自然体験活動のほか、人材育成活動にも取り組む NPO 法人大雪山自然学校の代表理事を講師に招き、自身の経験に基づく個人の行動や思考の変容などについて指導を受けることで、高校生が生徒会運営に生かすための実践的な手法を獲得できるようにした。
- 持続可能な社会の創り手についての視点を学ぶ
 - ・演習において、「持続可能な社会の創り手」という視点から、自分たちの学校の課題を洗い出し、その解決方法について考察を深められるようにした。

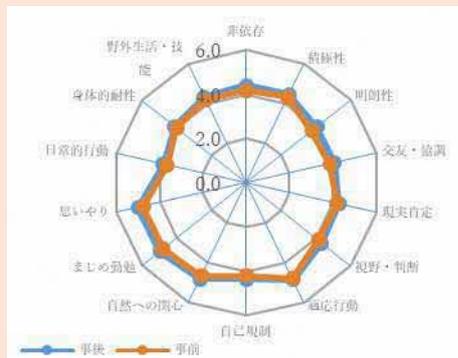


生徒会運営の実践的手法を学ぶ



グループワークで考えをまとめる

5 事業の評価



- IKR 調査による変化
 - ・「視野・判断」「日常的行動」が0.2P 向上
 - ・「積極性」「適応行動」は大きな変化なし
- 参加者の声
 - ・今後の生徒会活動に生かせることがたくさんあった。
 - ・他校との交流ができ有意義だった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「持続可能な社会の創り手」としての生徒会活動をテーマに、SDGs についての理解を深めたことが「視野・判断」、「日常的行動」の向上につながったと考えられる。
- 「積極性」や「適応行動」に変化がなかったことから、感染対策を講じた上での参加者同士・学校間の交流などを工夫する必要がある。



企画のポイント

話し合いやまとめ方の手法を学ぶため、高校生が関心を持つ講師の選定と活用